オオエンコウガニ　南東大西洋

Deep-sea red crab *Chaceon erytheiae*

（図版：SEAFO Stock Status Report より）

管理・関係機関

南東大西洋漁業機関（SEAFO）

生物学的特性

■最大体長（甲長）：雄 13.2 cm・雌 11.3 cm、最大体重：雄 780 g・雌 420 g
■寿命：15 歳前後
■性成熟年齢：不明
■産卵期・産卵場：産卵期（不明）・産卵場（Valdivia Bank）
■索餌期・索餌場：索餌期（不明）・索餌場（Valdivia Bank）
■食性：死骸も餌とする雑食性
■捕食者：オレンジラフィー等大型魚類

利用・用途

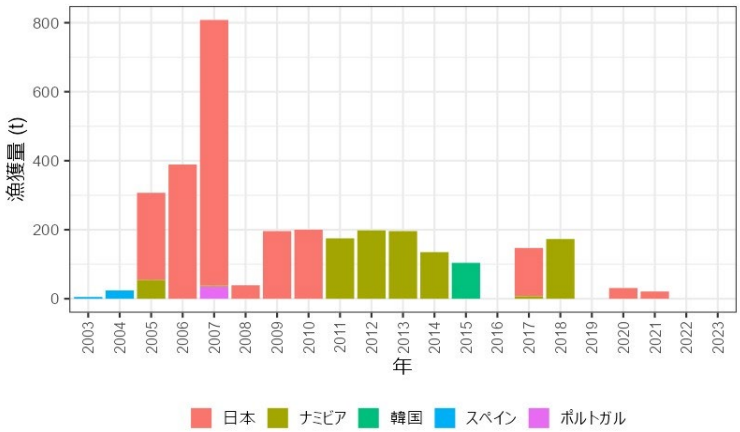
本種は、主に缶詰、ほぐし身として利用される。

漁業の特徴

SEAFO における本種の漁場は B1 海域内 Valdivia Bank の限られた場所で、主に日本とナミビアがかにかご船で操業を行ってきている。

漁獲の動向

SEAFO 設立（2003 年）以降、2016 年と 2019 年を除き、2021 年まで毎年 1～3 隻のかにかご船が操業を行ったが、2022～2023 年は本種に対する操業は行われなかった。操業のあった年の漁獲量は、5～808 トンの間で変動し平均 185 トンであった。2007 年に最大漁獲量 808 トンを記録した。



SEAFO 条約海域におけるオオエンコウガニの年別・国別漁獲量（2003～2023 年）
（注）2022 年南アフリカのトロール漁船による混獲（1 トン未満）があった。

© 2024 水産庁 水産研究・教育機構

資源状態

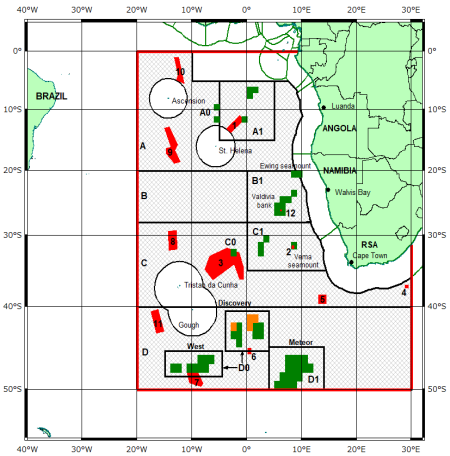
資源豊度指数（標準化した単位努力量当たりの漁獲量（CPUE））によると、2013 年まで豊度指数は年々増加したが、それ以降は 2015 年を除き減少している。2005 年から 2007 年に平均 501 トンの高漁獲があり、その後も総漁獲可能量（TAC：200 トン）に近い漁獲量が 6 年間継続した。おそらく高漁獲の影響で加入量が急減し、そのコホート（同世代群）が寿命 15 年のオオエンコウガニ資源量に悪化をもたらし、2015～2017 年に豊度指数が急減したものと考えらえる。2021 年の CPUE はピーク時（2013 年）の 10%まで落ち込んでおり、科学委員会で資源状態の悪化が懸念されている。資源水準はこれまで資源評価が合意されていないため不明、資源動向は最近の CPUE が減少傾向にあるため減少と、それぞれ判断した。

管理方策

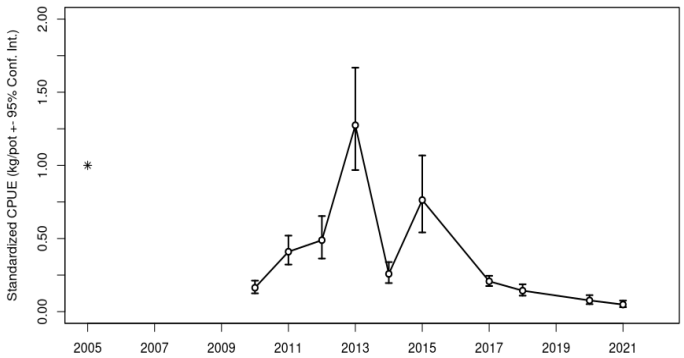
管理措置決議 CM30-15 では、底魚漁業、禁漁海域、脆弱な海洋生態系（VME）を含む深海生態保全、科学オブザーバー乗船義務、開発漁業等の規則が定められている。TAC 設定規則では、科学委員会で合意された資源評価結果が無い場合漁獲管理ルール（HCR）で TAC（2 年毎）を決定することが合意されている。HCR は、最近 5 年間の CPUE の平均的傾きに基づくものである。合意された資源評価が現在までないため HCR で TAC が決定されている。2024 年の TAC は、2022～2023 年の TAC が継続され、B1 海域で 162 トン（他の海域では HCR を使用せず以前と同じ 200 トン）である。その他の管理方策には、CM04-06（サメ類保全）、CM14-09（海亀類保全）等がある。

オオエンコウガニ（南東大西洋 SEAFO 条約海域）の資源の現況（要約表）

世界の漁獲量 （最近 5 年間）	0～31 トン 最近（2023）年：0 トン 平均：10 トン （2019～2023 年。2019、2023 年操業は無く 2022 年は混獲 1 トン未満のみ）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	0～31 トン 最近（2023）年：0 トン 平均：10 トン （2019～2023 年。2019、2023 年操業は無し）
資源評価の方法	体長コホート解析及び Y/R（Yield per Recruit）解析
資源の状態 （資源評価結果）	2014 年に体長コホート解析及び Y/R（Yield Per Recruit）解析が行われたが、使用した成長式が他海域からの代用であったため、科学委員会は正式な結果としては認めなかった。しかし、解析結果から漁獲圧が最大持続生産量（MSY）を実現するレベルを下回っていると考えられている。 2021 年の CPUE はピーク時の 2013 年の約 10%まで落ち込んでおり、科学委員会で資源状態の悪化が懸念されている。 資源水準：不明（資源評価が合意されていないため） 資源同行：減少（最近の標準化 CPUE が減少傾向にあるため）
管理目標	HCR に基づく TAC（2022～2023 年）（B1 海域：162 トン、その他の海域 200 トン）
管理措置	● 底魚漁業、禁漁海域、VME を含む深海生態保全、開発漁業等の規則 ● B1 海域における 2022～2023 年 TAC162 トン、その他の海域 200 トン ● サメ類保全措置 ● 海亀類保全措置
管理機関・関係機関	SEAFO
最新の資源評価年	2014 年（資源評価は今まで 2014 年のみ実施されたが、科学委員会で結果は合意されなかった）
次回の資源評価年	未定



SEAFO 条約域とオオエンコウガニ主漁場
（SEAFO B1 海域 Valdivia Bank）



SEAFO B1 海域 Valdivia Bank におけるオオエンコウガニ資源量豊度指数（標準化 CPUE）の推移（2005～2021 年）
（注）2005 年の指数は＊で表示。2006 年～2009 年の指数は、CPUE データが無いため不明。

© 2024 水産庁 水産研究・教育機構